

与論島をどのように活性化させるか

法文学部経済情報学科 1年 勝又理花子 学籍番号：1114500283

今回の集中講義をきっかけに初めて与論島を訪れたが、とても素敵な島で、また行きたいと強く感じた。しかし、与論島は衰退する観光客数に苦しんでいるのも事実であり、今回は私なりにどのように与論島を活性化していけばよいのかということ考えた。

与論島に滞在している間は、毎日のように街を歩いてはお土産屋に通ったが、「与論島」感を出している特産物もあまり販売をされてはいなかったし、地元ならではの料理も全くわからなかった。したがって、もっと居酒屋の看板で与論島独特の郷土料理をピーアールすべきだ。また、お土産屋では沖縄名物の「ちんすこう」などと同じようにまとめて重ねて商品を陳列せず、与論島でしか売っていない商品は目立たせるために商品のまわりにデコレーションをした小さなカードを飾るなど、観光客になるべく知ってもらうようにすべきだ。

また、与論島を訪れたことのない人にも与論島の特産物を知ってもらうためにも新たなピーアールをすべきだ。例えば、コンビニエンスストア会社と提携を結び島の郷土料理を実際に多くの人を訪れる本土のコンビニエンスストアで売り出すことだ。そこで売られた与論島の郷土料理を食べた人が“本場の味を味わいたい”と感じ与論島へ行くきっかけともなるだろう。また、学生であれば学食に行く機会が多いので学食の期間限定メニューとして販売し、学生の興味を引くこともできるだろう。

もう一つは与論島での「結婚式産業」だ。実際、私は与論島に行き地元の人話を聞くまでは、与論島で水中結婚式が存在するとは全く知らなかった。この水中結婚式とは茶花海岸沖の海中宮殿で式を挙げるという素敵なプランである。この他にも干潮時にしか現れない百合ヶ浜での挙式プランもある。しかし、これらの知名度は低い。確かにインターネット上では紹介しているがインターネットは私たち自身がまずどこかで知ってか検索するものである。この与論島での結婚式もどこかで知るきっかけが無ければサイトすら多くの人に見られることはない。したがって、知名度を上げるためには式場のポスターを作って与論島以外の場所に張るなど、広告料を多少払ってもアピールをすべきである。張る場所も駅のホームやバスの座席近くに張るなど、いろんな人が目にする場所のほうがより良い。与論島の海は本当にきれいなので、写真を通して美しさは十分伝えることはできる。特に百合ヶ浜での挙式は360°海に囲まれ、結婚式では有名なハワイやグアムでも味わえない景色を堪能することができる。

以上述べた点が私が与論島に実際に行って感じたことだ。しかし、初めて与論島を訪れ海の美しさや砂浜の白さ、サトウキビ畑など感動をすればかりであった。そして何より島

の人の温かさに多く触れることができた。人の温かさというのは間接的ではなく直接的にはないとなかなか実感することは難しいだろう。だからこそ、与論島に行き島の人と多くふれあいゆっくりとした時間を過ごしてみてもうだろうか。島に滞在している間は驚くくらいに時間がゆっくりと流れていた。単に観光目的で行くのものにも最高の地であることは確かであるが、少し毎日の生活に疲れたときや元気が欲しいときにも与論島は答えてくれる場所なのであると感じた。私自身このような温かい島に触れることができるとても良かったと感じるし、またいつか戻ってこようという思いも強く心に根付いている。